



R I. 第2620地区 静岡第2分区  
三島西ロータリークラブ

## 週報

第1750号

事務所 静岡県三島市中央町4番9号 2F  
TEL (055) 976-6351 FAX 976-6352  
例会場 静岡県三島市本町14-31 みしまプラザホテル  
TEL (055) 972-2122  
会長 岩崎 守幸 幹事 飯田 守



広重版画より 三島 朝霧

## 第1812回例会

2009.10.15晴  
於:米山梅吉記念館

### 司 会

佐々木雅浩君

### ロータリーソング

「日も風も星も」  
指揮 石井良衛君

### 会長挨拶

副会長 矢野敏夫君

10月は米山月間で、毎年米山梅吉翁の業績を偲んで、当クラブもこの米山記念館で例会を行っており、昨年10月の米山記念館の例会から一年がたちました。早いものです。今年も米山奨学生の方々に後程卓話をお願いしてあります。

米山梅吉翁が東京ロータリークラブを創立してから本年で89年になるとのことで、現在約90,000人の日本のロータリークラブの会員にとっては誰もが知っている創始者です。又、現在ロータリアンによって維持運営されている「(財)ロータリー米山記念奨学会」により、日本に留学している外国人留学生に対し、国際理解と親善を深めるために、ロータリアンの寄付金を財源として奨学金を支給、援助しています。寄付金にはロータリアン一人がそれぞれ寄付する普通寄付金と他に特別寄付金があり、これらの寄付金により「世話クラブ」を通じて奨学金を支給しています。

この米山奨学制度は各奨学生にロータリアンがカウンセラーとして付き各種アドバイス、相談等をしたり、奨学生が毎月世話クラブの例会に参加して親善を図るなど、他の奨学制度にはないメリットがあると思います。

本日はこの米山記念館に韓国からの留学生朴俊範さんを迎えるなど、我がクラブにも大変身近なものとなった、この米山奨学制度を通して、米山梅吉翁を偲びつつ国際親善等も図りたいものです。

### “こんにちは、ようこそ”

ゲスト 朴 俊範さん(米山奨学生)

### 出席報告

|     | 出席総数  | 出席率    | メンバー  | 修出席率   |
|-----|-------|--------|-------|--------|
| 前々回 | 41/50 | 82.00% | 44/50 | 88.00% |
| 今回  | 37/50 | 74.00% | 会員総数  | 55名    |

欠席者 井上君、勝間田君、栗田君、澤村君、鈴木(正二)君、鈴木(正能)君、千葉君、野田君、原君、室伏君、森崎君、柳田君、渡邊君

### ～新会員紹介～



窪田 明君

生年月日 : 昭和27年10月10日  
職業分類 : 木材加工  
代表事業所 : 谷田木材  
役職 : 代表  
三島市谷田字塚畑1539-34  
TEL 972-5544・FAX 972-7769  
趣味 : 読書 サッカー

2009～2010年度  
国際ロータリー会長  
ジョン・ケニー

ロータリーの未来はあなたの手の中に

## スマイルボックス

- ◆岩崎会長、今までの間、皆様のご支援とご協力で無事に事業を遂行することが出来ました。
  - ◆栗原君、室伏さん、みしまプラザホテルの皆様、長女がお世話になりました。また、矢岸さんには義母がお世話になりました。ありがとうございます。
- ※本日のスマイル計4,000円は米山梅吉記念館に寄付させていただきます。

### 卓 話

#### 21世紀の和

米山奨学生 朴 俊範さん

皆さん、こんにちは。私は日本大学国際関係研究科修士課程の2年生バク チュン ボムと言います。最初に、私がどうして日本へ来たのか、日本で何を勉強しているかについて簡単に申し上げます。

私が初めて日本で長期的に過ごしたのは、2002年ワールドカップがあった時に、ワーキングホリデービザで日本へ来た時でありました。その時はワールドカップによって両国間の関心が増大されている時でした。私もそんな関心のため日本へ来るようになったし、友達と一緒に色々な地域を旅行して、さまざまなことを見ましたが、日本人との交流はなかったの、いつも口惜しさが残りました。韓国で日本について勉強する時に私は常に「朝鮮半島の統一」という問題について考えてみました。なぜなら、朝鮮半島の統一がなくては北東アジアの平和は永久的ではないからです。また、日、中、韓は歴史的に複雑な関係にあります。北東アジアのこんな複雑な問題を平和的に解決することができる方法は経済的交流が、まずされなければならないと思いました。そのため、私は最初に韓国と一番近くにある日本で日本文化を学んで、経済的な勉強をしなければならないと思い日本へ来ることになりました。

「和」は日本を代表する字の中の一つだと思います。韓国に帰った時、誰かが日本について話して見なさいと言えば、私は「和」という日本を代表する字について話したいと思います。日本の一般家庭に2ヶ月ぐらいホームステイをした時がありました。昼にはバイトをしなければならなかったから、夕方家に帰った時疲れて私の部屋に行ってしまい、ホームステイ家族と話す時間があまりなかったです。ある時おばあさんがおっしゃいました。「うちの家族は、朴君が居る2ヶ月の間は、朴君は私達の家族だと思います。だから夕方にちょっと疲れていても和室に集まって一緒にお茶を飲んで、TVを見ながら話をしてお互いに理解することができる時間をたくさん持ったらと思います」と話しました。

初めはたくさん疲れましたが、色々な国で過ごして見た経験で推し量って、身体で感じて見ることが他の文化を一番易しく学んで理解することができる方法であると考えました。そのため、私は、おばあさんのお話のままに夕飯を食べて、一時間でも家族の人達と一緒にお茶を飲んで、TVも見ながら話をしながら過ごしました。2ヶ月という時間が電光石火のように経ち、私は韓国へ帰りました。その家族との思い出を回想しながら分かりました。「あ！ そうだ！ そのため、和室だ。」と分かりました。韓国では家族の大事さ儒教的な価値観によって形成されているが、日本は「和」という思想によって家族の大事さが守られています。そのため、和室と言うのかと分かりました。このように、和は調和、平和、似合う、など共同体の秩序を維持して和合することだとわかり、「和」という字を通じて日本の思想を学ぶことができました。

一方にこんな考えもしました。和は共同体の構成要素の調和を強調するが、調和がすぎるほど構成員たちの個性が無視されてよく言う「いじめ」が生ずるのではないかと思われました。もうちょっと考えて見れば、国家的な次元で和がすぎるほど鎖国や閉鎖的な社会になるのではないかと思います。こんな時代に私は「和」に対してどう思わなければならないか、疑問を持つようになりました。和の長所を生かして平和の道に行く方法です。私はその方法をロータリークラブで搜してみました。ロータリー奨学金を申し込む前にロータリー記念館を先に訪問して見ました。理由は私がどんな目的の奨学生を申し込んで、受けようとするかに対して知りたかったからです。家に帰る途中に口元に笑いを隠すことができなかったです。20世紀の歴史的な痛みたちを越えて未来のための平和のための希望の種子を見たからです。私が今まで思ってた平和が日本ではこんなに成り立っている。という考えに心強い同志に会った感じを受け、喜びを抱いて家に帰って来ました。私が思う「21世紀の和」「世界化時代における和」は抽象的だが、最小限一つの団体、組織、一つの民族、一つの国家のためだけの「和」ではないと思っています。国境を飛び越えて、人種の壁を越えて、思想の壁を飛び越えて、人類のための世界平和を思うのが、21世紀における「和」の姿ではないかと思います。



※紙面の都合で幹事報告は次週に掲載します。

(週報担当：瀬川幸信)